

平成 22 年 6 月度情報発信 No. 36

お世話になっております。皆様方ご健勝のこととお喜び申し上げます。平成 22 年 5 月初旬～平成 22 年 6 月末にわたる情報発信をお届け致します。

2 ヶ月前までは、寒さから暖かさへの変化が話題になっておりました。今は、梅雨に入り、鬱陶しい天気が続きます。気温は高く、汗ばむ日々です。しかし、寒い数ヶ月前に比べれば、入梅したこのごろの方がずっと過ごしやすく感じます。皆様は如何でしょうか。多分この感覚は、各職場や家庭に空調設備が整ったことも一因でしょう。

最近、日本の主だった企業は、国内の需要の伸び悩みから、企業の成長を発展途上国に求めて、生産をグローバルに展開しています。しかし、海外コストが格段に安いということで操業している工場、例えば、中国の工場にある日台の工場で賃金アップを要求して、ストライキが頻発しています。トヨタ、ホンダでは車生産ラインが止まる異常な事態が起っています。発展途上国における低賃金をベースにしたコスト削減も今後はだんだんと難しくなっていくようです。企業の戦略も変革を迫られるようです。弊社もコンサルティング業務のグローバル化を考えております。それにつけても、海外での事業経営は、相手国の生活レベルの向上、民意の変化、その国の市場構造を見極めたうえで、対応する必要性を感じます。

ワールドカップで、日本は予選でカメルーン、デンマークの強豪を下し、優勝候補のオランダには 1 対 0 で惜敗しましたが、難関の予選突破を果たしました(6/25 日現在)。ワールドカップ公式戦の前の対外練習試合では、連戦連敗で、日本人の大多数がベスト 16 位突入は無理だと思っていました。それが、公式戦に入ってから、見違えるように一戦一戦とチームが強くなって行くのが分かります。日本にあったサッカー戦略の確立と、チームの団結心が強くなったためでしょうか。大変頼もしい限りです。ついこの間まで、国際試合で負けた後に闘莉王が発していた「俺達はへたくそだから、練習しかない」との言葉が思い出されます。何事も、練習、努力あってのものだとの感じを再確認しました。

活動報告

特記事項

- ① 腐食防食協会学会 材料と環境 2010 (於東京、5/14～15)
協会の名誉会員に推戴される(資料添付)。
- ② (社)大阪技術振興協会 技術士二次試験セミナー講師 (5/15)
- ③ クライアント会社で講演 (於岐阜)
- ④ 会計事務所です弊社の平成 21 年度決算の最終打ち合わせ (5/19)
- ⑤ クライアント会社で研究指導 (於堺市)
- ⑥ (社)大阪技術振興協会 技術士一次セミナー講師 (5/22)
- ⑦ 海外出張 (5/23～5/27)

- ⑧ クライアント会社で研究指導（於堺市）（6/3）
- ⑨ （社）大阪技術振興協会理事会に出席。協会監事に任命される（6/5）
- ⑩ （社）大阪技術振興協会 二次試験セミナー講師（6/15）
- ⑪ 東京のクリアアント会社が打ち合わせのために来社（6/8）
- ⑫ （財）北九州市国際技術協力会（K I T A）主催腐食・防食セミナー
1日講師（於 北九州市、6/17）
- ⑬ クリアアント会社で研究指導（於北九州市）
- ⑭ （社）大阪技術振興協会監事会（6/21）
- ⑮ 送電鉄塔の防食技術4社打ち合わせ（6/24）
- ⑯ （社）大阪技術振興協会 一次試験セミナー講師（6/26）
- ⑰ クライアント会社で研究指導（予定、於堺、6/29）

文献

1. 上田隆雄ら：コンクリート構造物の劣化と問題点，材料と環境，59，No. 4，
p. 111-116(2010).
コンクリート橋の劣化診断と補修・補強対策を紹介している。
2. 片脇清：コンクリート橋の塩害対策 わが国における30年の歴史と検証，材料と環境，
59，No. 5，p. 195-204(2010).
わが国における塩害をうけたコンクリート橋梁群の紹介、および新設橋の塩害対策としてエポキシ塗装鉄筋、コンクリート塗装、CFRP緊張材を紹介している。
3. 原信義：実不働態から人工不働態へ、そして再び不働態皮膜へ，材料と環境，59，No. 6，
p. 212-218(2010).
金属系資源の節約を目的として、ステンレス鋼に関して、最小限の合金元素添加で耐食性を極限まで高めたステンレス鋼（グリーンステンレ鋼）の創製の研究を進めている。得られた新しい研究結果を紹介している。
4. A. Turnbull：2009 W. R. Whiney 賞受賞 局部水素発生と水素の環境助長割れとすき間腐食に及ぼす影響，材料と環境，Corrosion，59，No. 5，p. 005001 1-11(2010).
局部腐食の研究の発展について記述。炭素鋼及びステンレス鋼のすき間内のpH変化について調べた。また、pH溶液が変化に関連して、炭素鋼とステンレス鋼、電解質溶液の場合と低電解質溶液の場合の違いを考察した。
5. F. Bocherら：人工すき間溶液を使用してのMo量に依存するNi-Cr-Mo合金の臨界すき間腐食電位の推定，材料と環境，Corrosion，59，No. 5，p. 055002 1-15(2010).
合金元素としてのMoの効果を追求した。
6. D. C. Silveanら：腐食抑制剤のスクリーニングに役立つ電位—pH図（Pouribaix），Corrosion，59，No. 5，p. 055003 1-15(2010).
金属材料として、鉄、銅、ニッケルに使用する防食材の効果を電位—pH図で言及した。

推薦書

長野 博夫 殿

あなたは腐食防食に関する学理の
発展および技術の進歩に著しく貢献さ
れました。

本協会は定款第6条に基づき総会の
議決を経て、あなたを

名誉会員

に推薦します。

平成 22年 5月 13日

社団法人 腐食防食協会
会 長 酒井 潤一

以 上